

第3回 平塚市総合計画審議会

会議録

日時	令和5年12月19日(火) 16時00分～17時45分
場所	平塚市役所本館3階 302会議室
出席者	21名 大熊委員(会長)、湯川委員(副会長)、白石委員、中村千里委員、 齊藤委員、秋山委員、田中委員、木川委員、金田委員、志村委員、 大場委員、白岩委員、中村俊太委員、藤井委員、森委員、米村委員、 片倉委員、出村委員、上野委員、尾上委員、篠田委員
市出席者	2名
事務局	8名
傍聴者	1名

開会

1 諮問

(仮称)次期平塚市総合計画(2次素案)に対する諮問書を、今井副市長から大熊委員(会長)に手交した。

2 挨拶

3 議題

(1)(仮称)次期平塚市総合計画(2次素案)

【会長】 これより事務局から資料を説明し、その後、主に「人口減少社会」「デジタル化」「脱炭素化」というテーマについて、2次素案に対する意見をもらいたい。その後、その他の意見については、時間の許す限りもらいたいと考えている。なお、意見は挙手にてお願いする。会議の最後に、本日の意見やこれまでの審議会であった意見を踏まえ、私から発言をさせてもらい、答申(案)の元としたい。

【事務局】(事務局より資料説明)

【会長】 まず「人口減少社会」「デジタル化」「脱炭素化」の観点から、意見があったら挙手をお願いする。

【委員】 資料編の用語解説にあるDX(デジタル化)、GX(脱炭素化)が何の略が分からない。DXはデジタルトランスフォーメーションの略といった説明を記載した上で、本書での取扱いを記載するなど、分かりやすい説明にすべき。

【事務局】 略の説明を入れた上で、本書での取扱いを記載するようにしたい。このような記載にした意図としては、DX、GXのXはトランスフォーメーションの略で、よく変革という意味で使われるが、一般に浸透しにくい、分かりにくいと考え、デジタル化や脱炭素化といった馴染みがある日本語表記を併記したものである。

【委員】 p.34の重点戦略1-(2)「子育てにゆとりが持てる」の基本的な方向性で、「男

性の家事・育児」と、男性と限定されている。ジェンダーレス、ワーク・ライフ・バランスの観点から、柔軟い表現にすべき。

重点戦略2「活気あふれる産業づくり」に関連して、平塚市の産業の分析として、p.13にサプライチェーンの変化が見込まれるとあるが、サプライチェーンの枠を飛び越えて、平塚にある産業の横の連携を強め支えるような取組を入れるべき。

【委員】 p.107のデジタル化の取組にある「中小企業のECサイト構築支援」について、ECサイトはかなり普及してきており、企業としては、勤怠管理や会計管理などバックオフィス業務にDXのニーズが高まっていることから、ECサイトに限定しないようにすべき。

デジタル化するに当たっては、システム導入のコストがかかる。デジタル化支援の補助を継続して欲しい。

デジタル化を進めようとしても、情報分野に長けた職員が不足していることから、システムの導入に至らないといった悩みを持つ事業者も多い。デジタル化導入サポートの専門家派遣を検討して欲しい。

脱炭素の取組について、企業の省エネ、節電、再生エネルギー使用のニーズが高い。脱炭素設備投資の補助を継続するとともに、年度に区切られない長期的な支援があると良い。

近隣市町の中で平塚市のデジタル化・脱炭素化の支援策が一番充実しているが、事業者が認知していない。もっと周知・プロモーションを強化すべき。

【委員】 p.55の分野別施策1 - 「教育環境を充実する」の成果指標の中で、「小・中学校のトイレの洋式化」があるが、目標値が90%を切っており、低すぎるように思える。また、p.59の分野別施策2 - 「健康づくりを推進する」の成果指標の中で、「がん検診の受診率」の目標値も低い。総合計画の中で、もっと強く示す必要がある。

p.80の分野別施策4 - 「日常生活の安心・安全を高める」の課題において、地域における犯罪や消費者被害を未然に防止する必要があるとしているが、市民が被害に遭わないと思える具体的な取組がもっとあると良い。

【委員】 DX、ICTの活用は便利になる反面、個人情報等の漏洩リスクが高まるため、セキュリティ強化の観点も必要である。

システム導入はコストがかかるが、システムの導入を検討している企業と、システムを提供する企業とではその費用の認識に乖離があるため、システム導入はコストがかかることを周知とはいかないまでも、共通認識を持つことが必要である。

デジタル技術を導入するだけでなく、その後のランニングコストも視野に入れて運用できるよう、長期的な計画の策定支援が必要である。

【委員】 p.57の分野別施策1 - 「青少年の健全育成を推進する」のデジタル化・脱炭素化の取組について、青少年に対する環境意識の啓発しかない。ネットリテラシーなど、若者はデジタル化への親和性が高く、もっとできる取組があるはず。

p.71の分野別施策3 - 「コミュニティ活動を促進する」のデジタル化の取組について、ちいき情報局の活用促進だけではなく、例えば、地区公民館のWi-Fi環境の整備など、市民がコミュニティの活動を行う中で、デジタルを活用できるよう、もっと幅広く利用できる環境があると良い。

【委員】 少子化対策は国の施策を含めて様々展開してきているが、その次のステップがなかなか見えない。人口減少が進んでいったときに、地域コミュニティが希薄になること

が目に見えている。その中で、地区公民館の幅広い活用方法を考えるべき。

【委員】 p.37の重点戦略2-(1)「技術力・競争力を向上する」の基本的な方向性に誘致とあるが、KPIには、「企業立地支援件数【累計】」はあるものの、誘致についてのKPIがないので、誘致といったような用語があると良い。

p.36の重点戦略2「活気あふれる産業づくり」の数値目標に「入込観光客数」とあるが、観光は文化的な要素が背景にあり、産業として育てていくにはまた別の要素が必要であることから、観光と産業は離して考えたほうが良い。

【委員】 p.45の重点戦略4-(1)「防災・減災対策を強化する」のデジタル化の取組として、物理的・ハード面の取組は見受けられるが、目に見えないソフト面の取組が見えない。例えば、サーバのクラウド化など、減災に向けたソフト面で対応できることの記載があると良い。

【委員】 デジタル化について、民間のデジタル化支援という面と、行政サービスのデジタル化という面がある。市民にとっては、行政サービスのデジタル化も関心が高いので、具体的な取組で追記できることがあると良い。

各重点戦略の「SDGsの目標との関連」でアイコンを追加しているが、アイコンの文字が見つらいので、工夫があると良い。

【副会長】 DX、GXを考えていく中で、現在の取組の延長線上で発想するから足りない感が出てくる。もっと大胆に進め、平塚市だからできることを示していくことが必要である。

今回の計画にDX、GXを入れたのは、組織の縦割りを無くし、横断的に取り組んで前に進めていくという想いがあると聞いていることから、計画策定後の段階かもしれないが、その想いを市内部だけでなく、市民とも共有して取り組んでいく姿勢が重要である。

【会長】 ここからは「人口減少社会」「デジタル化」「脱炭素化」のテーマに問われず意見があればお願いしたい。

【委員】 資料編の用語解説について、ZEB、ZEHなどが何の略か分からない。また、その【さ行】に「災害時のレジリエンス」とあるが、「レジリエンス」で調べると思うので、「レジリエンス」として分類すべき。

【委員】 子育ての現場では、保育士が足りないことで、取り組めない事業・取組がたくさんある。保育士が足りれば、医療的ケア児の対応などの新しい事業・取組ができ、待機児童を引き受けることもできる。

【委員】 p.82の分野別施策4-「まちづくりの拠点形成を推進する」にある平塚駅周辺地区において、平塚駅についてはどのように考えているか。

【事務局】 市では立地適正化計画の策定を進めており、令和6年度に策定予定である。生活利便施設や都市機能を誘導する各拠点のエリアを見えるようにする計画である。その中で平塚駅周辺地区は一つの大きな拠点という位置付けとなる。

平塚駅に関しては、平塚駅周辺地区将来構想を進めており、こちらも令和6年度の策定を目指している。平塚駅の今後については、JRと担当部局で具体的な話をしていると思うが、事業を行うに当たっては、具体的に成ればなるほど予算の関係で難しい面も出てくる。この場で平塚駅そのものをどのようにするのか答えるのは難しいが、平塚駅も含めた周辺が一つの拠点としての位置付けられることになる。

【委員】 平塚駅は大きな拠点であることから、例えば、平塚駅自体の上部利用など様々な要

素をひっくり返して考えていくことで、その周辺地区が今後どのようなようになるか分かる
と良い。具体的になるとお金がかかることはあるが、それよりもまずどのような絵を描
くかが重要である。

【委員】 現在、策定を進めている平塚駅周辺地区将来構想が絵に書いた餅とならないよう、
今年度策定する市の最上位計画である次期総合計画と、令和6年度に策定する平塚駅
周辺地区将来構想をしっかりと関連付けすべき。

【委員】 重点戦略1についてはこれから平塚市が力を入れて取り組んでいく部分だと思
うが、数値目標やKPIについて、達成できる前提の現実的な数値となっている。例えば「保
育所等の待機児童数」のゼロを保つことは難しいが、もっと子育て世代やこれから子
どもを持ちたいと考えている人達が期待できるような、もっと高い数値、項目を設定
すべき。

【委員】 待機児童ゼロを目指すのは良いイメージがあるが、待機児童が解消された後には、
少子化の影響で定員割れも考えられる。施設を新たに作る時には理解を得やすいが、
統廃合などの閉じていく視点も必要である。

教職員、保育士の充実を図るため、採用の機会を増やすとともに、就職したいと思
えるようになることが重要である。教職員や保育士のマンパワーが必要であり、これ
は重点戦略だと考える。

【委員】 p.96の分野別施策5 - 「商業・観光を振興する」の取組方針の情報発信に関し
て、発信側はなかなか分からないが、市民の方々は興味を持ってきている。市民の
の方々に情報が行き届くようにする必要がある。

p.85の分野別施策4 - 「交通の利便性・快適性を高める」のデジタル化・脱炭
素化の取組に、「電気バスの導入支援と再生可能エネルギーの利用促進」とあるが、
市内で電気バスが走っていることを知らなかった。市が環境問題に取り組んでいるこ
とは、市民の信頼を得ることにつながるため、市民に分かりやすい情報発信が必要で
ある。

SDGsのアイコンの表記が小さく文字が見えづらい。レイアウトの関係もあると思
うが、大きくできると良い。

【会長】 次回の審議会では答申をまとめる必要があるので、コメントさせてもら
う。「人口減少社会」「デジタル化」「脱炭素化」というテーマやその他にも意見があ
った。

人口減少については、現在直面している最大の課題であり、DXがその対策につな
がるといった前提のもとで、コミュニティをどのように強化していくのか、子育てに
ついて男性だけでなくもっと広く捉えるべき、実態として保育士含めて人が足りない
といった意見があった。

DXとGXの関係では、横断的な取組として強調している部分を評価する上で、各分
野において具体的な取組でもっとできることがあるといった色々な角度からの意見
もあった。

市の中で部局が縦割りになりがちなところを横串としてDX、GXを掲げることで、
連携させる効果が見込めることから、具体的な取組が望まれるといった意見もあ
った。

産業、企業のニーズ・実態に合わせ、バックオフィスのDXや設備投資の支援継続
などの施策が、プロモーションも含めて必要といった意見もあった。

DXについては、セキュリティや災害時のレジリエンスといった忘れがちな視点も
指摘があった。GXについては、横のつながりを強化すべきといった意見があ
った。

全体を通した論点として、目標値や KPI については、もう少し加えるべきものがあるのではないか、もう少し高い数値設定ができるのではないかと指摘があった。

計画全体を市民に知らせてコミュニケーションをしていく重要性についても指摘があった。現在の取組の延長線上ではなく、平塚市だからできることをどこまで大胆に書き込むかということに加え、計画策定に終わらずに、状況を踏まえながら、取組を先に進めていくべきといった意見もあった。

総論だけではなく各論でも、子育てや学校などについて、マンパワーや施設の統廃合に関する指摘があった。まちづくりの拠点ということで、平塚駅周辺についてもこの計画の中でどのように扱うか考えたほうが良いといった意見もあった。用語解説の部分を含めて、表現をより分かりやすいための指摘、提案もあった。

また、私自身も触れておきたい部分があるので言及させてもらう。

GX、DX によって、持続可能な社会に貢献するだけでなく、市民の暮らしをより良くするという方向性をさらに打ち出せると良い。

p.24 の本計画の構成図について、まず条例の趣旨があって計画を作っているの、上の矢印は下向きが良い。また、基本計画内にある上向きの矢印は、p.26 で関係性が示されていることから、記載しなくても良い。

今日あがった意見をしっかりと踏まえ、計画本体に反映できるところは反映しながら進めていくことが適切であると思うので、事務局とよく調整しながら答申（案）を検討する。そして、次回の審議会で私から答申（案）を提示し、審議しまとめていきたいと考えている。委員の皆様の協力を改めてお願いしたい。

（２）その他

特になし。

閉会

以 上